

孤独死を防ぐために（２）

（１） 見守りの強化

独り死・孤独死を予防する上で一番大切なことは、地縁・血縁・職縁といった人間の結びつきをつくることです。こうした縁がたくさんある人ほど、独り死・孤独死のリスクが低くなり、安心して暮らすことができるといわれています。しかし、地域の中には縁をつくるのが困難な人もいます。そのような市民のために縁づくりの援助を行い、見守り活動を強化することが求められていることから、以下の事項について提案します。

ア 緊急通報システムの改善

第一に、緊急通報システムの整備についてです。現在、各地区の民生委員が大変な努力で訪問活動に取り組んでいるほか、全国各地で新聞販売所・水道・ガス会社との連携、ゴミ収集サービスなどが取り組まれています。本市でも高齢者安心見守りサービス事業や愛の一声運動事業とともに緊急通報システムが見守りの中心事業として平成7年度から取り組まれています。これは概ね65歳以上の病弱な一人暮らし高齢者や重度身体障がい者、家庭内での急病や事故に遭った場合の不安を和らげ、また速やかな対応を行うため電話回線を利用して、警備会社の受信センターに通報し、近隣の協力員が状況を確認するというものです。大変すばらしい事業ではありますが、ペンダントと据え置き型ということで、いざというときにボタンがどこにあるかわからなくなったり、協力員をお願いする際に人選が難しいという問題があるようです。また、駆けつけてくれる協力員に気兼ねしてボタンを押しづらいという問題もあるようです。このようなことから、緊急通報システムとしては腕時計型の端末に切り替えて、常時身につけていられる形態のものにすること、そして親類や近隣の住民を頼る協力員制度ではなく、前述した24時間対応の診療所や訪問看護ステーションなどの活用によって、医療・介護などの専門職が間に入り、そこで救急車を呼ぶかどうかの判断を行うようにするなどシステムの整備を図り、より利用しやすい緊急通報システムにしていくよう提案します。

イ ICTを活用した見守り機器導入への助成

第二に、情報通信技術（ICT）を活用した見守りの強化です。近年はICTを活用した見守りサービスが展開されています。その代表的なものが見守りセンサーカメラです。これは人が転倒したり脳梗塞を起こしたりしているなど、危険な状態に陥ったことをカメラが自動で検知して、スマートフォンなどに通知するシステムです。ライブ映像を観ることもでき、子どもが遠く離れているところに住んでいても、一定の安心感を得ることができます。

その他にも、日本郵便が開発した安否や体調確認をタブレット端末を利用して行うサービス（神奈川県愛川町）、診療所の登録患者にパソコンから定期的に自動電話して患者状況を確認する安心電話（千葉県松戸市）、電気ポットや電球の利用状況を利用した見守りサービスなど多彩なサービスが行われています。こうしたICT機器を活用した見守りについて、市の助成制度を設けることを提案します。